

ホクギン県内景気動向調査

平成22年9月実施

要 旨

〈業況判断〉

- 今期（2010/7～9月期）のDIは、全体で△6.7（前期比+0.8^{ポイント}）の見込み。企業の景況感は、2期連続で横ばいとなっており、踊り場状態にある。
- 来期（2010/10～12月期）のDIは、全体で△19.3（今期比△12.6^{ポイント}）の見通し。回復傾向を辿っていた景況感だが、先行きはやや弱含みとなっている。

〈業種別の業況判断〉

- 今期のDIでは、製造業（13.9）は前期（16.5）に引き続きプラスで推移した。また、卸・小売業やサービス業もやや改善した。一方、建設業は横ばい状況が続く。
- 来期のDIでは、製造業は9.4とプラスの見通し。一方、卸・小売業は大幅に低下し、サービス業や建設業もマイナス幅が拡大。景況感には業種間格差がみられる。

〈雇用状況〉

- 正社員の雇用状況DIは14.0。前回（12.9）に比べ、余剰感はやや強まった。業種別では、製造業で余剰感が強まっている。一方、建設業では余剰感は弱まりつつある。正社員以外の雇用状況DIは5.3。なお、若干の余剰感が見られる。

〈リーマンショックからの回復状況と先行き〉

- 4割の企業が、リーマンショック前の売上水準に回復したと回答。業種別では、卸・小売業やサービス業で回復度合いが高かった。一方、製造業や建設業では2割強が70%以下の回復にとどまっていた。来期の見通しは「横ばい」が4割超となった。また、減少予想が増加予想を上回っており、先行きは慎重な見方が多かった。

業況判断DI(全体)

